



平常心、いつも通りのルーティーン！（県陸上交流大会）

高さは100cm。

助走は9歩、ゆっくり間合いを取って、一気に左足から踏み出す…、バーは全く揺れない。マットの上で成功を確認すると、選手控えテントに戻り屈伸、ゆっくりとベンチに腰を下ろすと、スイズボトルの水を一口。

7月2日の福島県小学生陸上交流大会、男子コンバインA（走高跳・80mHの2種競技）にエントリーした、本校児童の様子です。

この日、この種目に挑戦した児童は本校でただ一人。監督の教師は、招集場で全選手一人一人を確実にエントリーさせ、他の教師もそれぞれの場所で役割を担っているため、近くにいることはできず、代わりに校長と教頭が見守り役を任せられました。「気の利いたアドバイスでも」と、出来るだけ近くに陣取ってはみたのですが、自分のルーティーンなのでしょう、練習通りに淡々と準備し出番を待つ児童の姿にただ感心するだけでした。合間を縫って駆けつけ様子を確認しに来た監督にこれまでの様子を伝えると。

じゃあ大丈夫ですね。声はかけないでください、本人に任せましょう。

とのこと、それは、普段から練習に携わり、一番身近で様子を見てきた指導者の言葉でした。

その後バーの高さは5cm刻みで高くなりましたが、児童の様子は変わらず淡々と競技に向き合い、見事に120cmをクリアしました。（自己新記録）

放課後の限られた時間（週3日）を利用して練習を重ねてきた、課外活動陸上部の選手が予選を勝ち抜いてたどり着いた県大会。14名がそれぞれの種目に挑みました。県内各地の猛者が集合する大会ですので、当然周りには知らない人だらけ、否が応にも緊張は高まります。もちろん会場となった競技場も初めて、その中で実力を発揮するのはなかなか難しいものです。普段の練習と平常心、それとコンディションがものをいいます。



何より、少ない練習時間を自主的に朝の練習で補った姿が素晴らしかった。

前出の監督の教師が、この日の最後に選手に話した言葉が全てを物語っていました。

結果が全てではなく、そこまでの過程が大切なのは、春から何度も繰り返して子どもたちに説いてきたことですが、見事に具現した選手と先生方です。

また、今大会3人の選手が見事に入賞を果たしました。校内での表彰は時間がとれずちょっとだけ先になりますので、早速、校長室でこれまでの努力をねぎらいました。

6年 相楽 信太朗さん 男子6年100m 第3位 記録13"08（東日本大会へ）

5年 山田 桜太郎さん 男子5年100m 第3位 記録13"83（東日本大会へ）

6年 遠藤 斗環さん 男子コンバインドA 第5位 記録1772点

<入賞者の声>

★ 予選では、タイムが出せず不安だったけど、決勝は風がない中でのこの記録なので、少しは成長できたと思ってうれしかった。（信太朗さん）

★ 前の日は、ストレッチで体をケアし準備しました。3位になれて嬉しいですが、もっと練習して次の大会も入賞したいです。（桜太郎さん）

★ 放課後集中して練習したから新記録が出たと思う。秋はハードルに出たい。（斗環さん）

※ 7月8日（土）は交通安全子供自転車大会県大会（福島市）に参加します。